

## 令和8年度学校評価

| 本年度の<br>重点目標 | 1 個に応じた指導の工夫及び授業力の向上<br>2 自立と社会参加を促す教育活動の推進<br>3 安全・安心な学校づくり<br>4 関係機関や保護者等との連携<br>5 センターの機能の充実<br>6 仕事の効率化   |   |  |
|--------------|---|---|--|
| 項目           | 重点目標  | 具体的方策   | 留意事項   |
| 小学部          | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人一人の病気等の状態や学習状況を踏まえ、「分かった」「できた」「友達といっしょだと楽しい」と実感できる授業を展開し、「なりたい自分」を目指して、主体的に行動できる力の伸長を目指します。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>通常学級やベッドサイド学級の児童が、自分の病気や体調等に応じ、「なりたい自分」や「将来の自分」など、自分のキャリアを意識して学習に取り組めるよう、諸活動で目標設定と振り返りを大切にしながら授業を進めます。</li> <li>重複障害学級の児童には、児童の実態や気持ちに寄り添った働きかけを行い、一層の意思や感情の表出を促す支援を行います。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>担当学年や学級に限らず、小学部全体で相談、研修を進め、発達段階に応じた支援の工夫について検討を行います。</li> <li>自立活動の目標や内容について、昨年度改善した情報交換シートを利用し、共通理解をより一層進められるようにします。</li> </ul>                                      |
| 中学部          | <ul style="list-style-type: none"> <li>集団の一員としての自己理解や他者理解を深め、他者とよりよい人間関係を築く力を育みます。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の自立活動の目標や活動内容の共通理解を図り、一人一人が課題達成できるように学校生活全般を通して支援します。</li> <li>集団活動の中で、対話的、協働的な活動を設け、自分の意見を発表したり、合意形成したりする経験ができるよう支援します。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動の観点からの生徒の願いや目標、活動内容や支援方法など、教師間での共通理解を図ります。</li> <li>集団学習の中で、他者と自分の考えの違いなどに気付き、自己理解や他者理解につながるように、生徒の気持ちに寄り添った支援に努めます。</li> </ul>                                   |
| 高等部          | <ul style="list-style-type: none"> <li>在学中に成年年齢に差しかかる高等部段階の生徒として、社会自立に向けた個々の課題を生徒が課題解決できるように指導・支援します。</li> </ul>                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が課題について理解したり、課題解決の方法を考えたり、振り返りをしたりする機会を設定し、課題解決できるように支援します。</li> <li>生徒の課題や取組について、部会、教育相談後の情報交換会等で検討や情報共有を行います。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態や病状等を把握し、生徒に合った指導、支援の方法を工夫します。</li> <li>教職員間での日常的な話し合いも大切にし、一貫した指導、支援ができるようにします。また、保護者や関係機関と連携しながら教育活動を実践します。</li> </ul>   |
| 施設内教育        | 名大<br>藤田<br>中京  | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人一人の治療状況や各施設の実情に合わせた学習環境を整えていくように努めます。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>教室登校とベッドサイド授業の切り替えや、一時帰宅中の学習環境整備等を、各施設の状況に応じて柔軟に対応していきます。</li> <li>各施設の実情に合わせた対応を検討していきます。</li> </ul>   |
| 訪問教育         | <ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関と連携をして、児童生徒一人一人の実態に応じた授業づくりをします。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>小まめに関係機関と情報交換を実施し、支援の目標や内容、方法について共通理解を図ります。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連携を密にするため、情報の共有の仕方についての検討をします。</li> </ul>   |
| 総務部          | <ul style="list-style-type: none"> <li>校内文書や情報を適切に管理し、正確で迅速な事務処理を行います。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>文書の保存年限を確認し、計画的に整理・廃棄を行います。</li> <li>通知文等は複数人で確認します。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>提出期限や実施時期を事前に確認し、余裕をもって準備します。</li> <li>最新の様式・通知に基づいて処理を行います。</li> </ul>   |
| 教務部          | <ul style="list-style-type: none"> <li>医療と教育の連携をより深め、児童生徒の体調や病状に応じた、安心して学びやすい教育環境づくりを進めます。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関との情報共有を密にして、学習内容や学習方法、指導方法を見直し、児童生徒一人ひとりに合った学習環境の充実を図ります。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>情報が担任だけでなく、関係職員間で共通理解が図れる体制づくりを進めます。</li> <li>「心身的な負担を考慮すること」と「学びを保障すること」の両立を意識した指導・支援を行います。</li> </ul>   |
| 自立活動         | <ul style="list-style-type: none"> <li>病気や障害の多様化・複雑化・重度化に対応し、児童生徒一人一人の状態や特性、生活に合った指導・支援の充実を図り、教職員の専門性を高めます。</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実態や自立活動の目標について、保護者と連携したり各部の職員で定期的に共有したりして、健康面や生活面を踏まえた指導・支援内容を設定できるようにします。</li> <li>外部専門家活用事業の研修を活用し、児童生徒の多様な実態に応じた支援方法や健康の保持増進、日常生活動作の向上につながる実践力を高められるようにします。</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と学校が同じ目標を共有し、日常生活の中でも継続して取り組める内容となるように連携を大切にします。</li> <li>児童生徒・教職員のニーズを把握し、優先度を整理しながら研修や環境整備を進め、成果を全職員で共有します。</li> </ul>  |
| 生徒指導部        | <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が主体的に活動し、安心・安全に学校生活を送ることができ環境を整えとともに、防災への備えや対策の見直しを図ります。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練を含む各訓練の目的とシナリオを明確にして実施し、防災への意識を高めていきます。</li> <li>情報モラル教室では、児童生徒だけでなく保護者にも参加を依頼し、学校・家庭の両方で多様な課題への対策を図っていきます。</li> <li>各部会での児童生徒のいじめ等に関する情報共有及び部間の連携だけでなく、外部機関を活用しながら</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな場面を想定して、防災に対する意識を高められるようにします。</li> <li>多様に変化する課題の具体例を挙げ、保護者とも情報を共有して正しい知識を増やすことができるようになります。</li> <li>日頃から職員間での情報共有を図り、いじめの早期発見に努めます。必要に応じてスクールカウンセラーを</li> </ul> |

|                    |   |  |   |
|--------------------|---|--|---|
|                    |   | ーム学校として課題や相談を共有していきます。   | 活用するなど、組織的に対応します。   |
| 保健体育部              | ・緊急対応の強化並びに保健関係書類の手引きの作成を進めます。                        | ・事前管制シミュレーション研修の実施の方法を工夫します。<br>・ヒヤリハットに関するデータの収集及び活用の方法を工夫します。<br>・保健関係書類の手引きの作成します。  | ・事前管制シミュレーション研修では、研修直後に課題を共有するなど、振り返りの時間の充実を図ります。<br>・ヒヤリハットの記入用紙の回覧や保健日誌を活用したデータ収集に努め、収集したデータを掲示するなど活用を進めます。<br>・養護教諭と連携し、手引きとして必要な書類を整理しながら、保健関係書類の手引きを作成します。 |
| 進路指導部              | ・福祉制度について職員の理解を深め、適切な進路指導をします。                        | ・福祉的就労の場で活用されているアセスメントシートを、中学部・高等部の担任を中心に配付をし、卒業後に地域福祉の中で必要とされている力について共有を図ります。   | ・地域の福祉施設や基幹・特定相談支援センター、地域の学校等と情報交換をし、常に情報の更新に努めます。必要に応じて、専門機関から説明をしてもらうなど、地域資源の活用をします。  |
| 教育支援部              | ・教職員の専門性の向上を図るとともに、病弱特別支援学校としてのセンター的機能の推進に繋がる環境を整えます。 | ・病弱教育に関する校内研修を設定し、その一部を地域の教職員に公開します。また、関係機関との情報交換の場が病弱特別支援学校としてのセンター的機能の一部を担っているという意識を高めることができますようにします。  | ・ニーズの把握に努め、児童生徒の支援・指導に役立つ研修を取り入れます。カンファレンス等の記録の様式、回覧方法等を見直しすることで教員間での共有をスムーズにし、病弱児の支援・指導に生かすことができるようにしていきます。  |
| 教育情報部              | ・ICT環境を整備し、職員が業務を円滑に行うための取組を行います。                     | ・職員全体に向けてICTを啓発する研修を行い、情報機器への理解を深めます。<br>・他の分掌や施設・訪問職員と連携をとりながら、業務の効率化を図れるよう、ICT環境整備を進めます。   | ・職員にアンケートをとり、夏季休業中などに時間をとってICTへの知識を深められるようにします。<br>・全体行事や、高等部で新たに始まる個人所有端末の運用など、各部や各分掌、各施設と連携をとりながら適切な運用ができるように支援を行います。   |
| 学校関係者評価を実施する主な評価項目 |   | 1 個に応じた指導の工夫により、授業力が向上できたか<br>2 自立と社会参加を促す教育活動が推進できたか<br>3 安全・安心な学校づくりができたか<br>4 関係機関や保護者等との連携による教育活動が推進できたか<br>5 センター的機能の充実ができたか<br>6 仕事の効率化により、働きやすい職場づくりができたか |   |